

※このページが動画と共にウェブサイトにPDF形式でアップロードされます。文字サイズは11で、用紙1枚に収まるようにまとめてください。

学校名	京都大原学院（京都市立大原小中学校）		
タイトル	国蝶オオムラサキの保護活動		
対象となっている野生生物	オオムラサキ		
活動開始年 （西暦）	2005年	活動に関わっている学年および生徒の数（年間）	全校児童生徒 9学年 86人
活動の内容			
<p>平成17年に、当時の5年生がオオムラサキの羽の破片を見つけたことから、調査が始まり、大原にオオムラサキがいることがわかりました。その後、オオムラサキの生息環境や保護できる環境を整えるべく、クヌギの植樹や飼育網室の設置を行いました。また、毎年、越冬幼虫調査などにより大原での生息実態の把握にも努めています。さらに、毎年初夏に学校行事として放蝶会を行い、保護した幼虫を羽化させ、自然に放す取組も行っています。現在まで続く長い取組となっています。</p>			
活動による成果・効果または活動によって今後期待できること			
<p>平成25年に、累代飼育が成功し、今では一年を通じて飼育網室でオオムラサキのいろいろなステージを観察することができるようになりました。</p> <p>この活動をさらに良いものにして未来に繋いでいくことで、里づくりの指標としてのオオムラサキが、大原の里を自由に飛び回るようになり、「大原といえばオオムラサキ」といった地域のイメージにも繋がるようになる日が来ることを期待したいです。</p>			
アピールポイント（活動において特に工夫したこと、注意・注目したことなど）			
<p>大原でのオオムラサキ保護活動は、平成17年に当時の5年生が見つけた羽の破片がきっかけとなって始まり、現在まで長く継続して取り組んでいます。地元の皆さんで構成されている「大原里づくりトライアングル」の事業の一環として行われており、行政やオオムラサキを守る会の専門家、学校の教職員、学院生とその保護者も関わっています。</p>			
今後の課題、これからやってみたいことなど			
<p>京都大原学院の学院生として、オオムラサキの保護活動に9年間関わる中で、私はもっと「広めるための取組」をするべきではないかと考えました。他地域の方には、大原地域にオオムラサキがいることがあまり知られておらず、大原にオオムラサキがいること、そして保護活動を行っていることをもっと多くの人に知ってもらいたいと思ったからです。</p>			
自由欄			
<p>今後の課題については、京都大原学院の9年生の取組である「大原提言」において、実証研究として取り組んでいるところです。「広めるための取組」にどのような可能性があるのかを考え、企画案を練っています。</p>			